

決算特別委員会総務文教分科会

平成29年9月19日（火）

午前11時5分～

第3委員会室

1 開議

2 案件

○事務事業評価選定事業の論点整理について

- （1）セーフコミュニティ推進事業経費
- （2）就学奨励経費
- （3）教育研究所事業経費
- （4）学校運営経費（小学校費・中学校費）

3 その他

○審査日程

- ・ 9月20日（水）10：30～ 所管分調査
（議会事務局、市長公室、企画管理部）
※全体会は10：00から
- ・ 9月21日（木）10：00～ 所管分調査
（生涯学習部、総務部・監査委員事務局、会計管理室）
- ・ 9月22日（金）10：00～ 所管分調査
（教育部、事務事業評価打ち合わせ・意見交換）
- ・ 9月25日（月）10：00～ 事務事業評価、分科会採決
- ・ 9月26日（火）10：00～ 委員長報告確認
※全体会は10：30（予定）から

事務事業評価 論点整理資料

(1)【セーフコミュニティ推進事業経費】			
内 容	○市民との協働によるセーフコミュニティ（ＳＣ）活動を通じて、事故やけがなどの外傷予防や、安全性向上対策を継続的に図っていくことで、誰もが安全を実感し、安心して暮らせるまちづくりを継続させる。 ○ＳＣ理念をさらに児童・幼児、保護者、地域へ定着させるため、市内１０カ所の小学校や保育所（園）でインターナショナルセーフスクール（ＩＳＳ）活動を推進する。 ○平成３０年のＳＣ再々認証、ＩＳＳ再認証を目指して、取組みをさらに展開させる。		
	(主な経費)	予算額	決算額
	・セーフコミュニティ推進事業経費	3,770 千円	3,457 千円
	セーフコミュニティアドバイザー報酬	420 千円	420 千円
	セーフコミュニティ推進協議会等委員報償	470 千円	384 千円
	ＳＣネットワーク会議等参加旅費	363 千円	
	亀岡市セーフコミュニティアンケート調査事務経費	657 千円	
	救急搬送データ分析・アセスメント委託経費	900 千円	842 千円
	・セーフスクール推進事業経費	1,000 千円	1,070 千円
	ＩＳＳプログラム推進支援業務委託経費	240 千円	223 千円
選 定 理 由	○平成３０年度のＳＣ再々認証、ＩＳＳ再認証を控え、決してそれぞれの再々認証、再認証を否定するものではないが、特にＩＳＳで、この事業によるセーフコミュニティの理念の浸透状況、事業効果等を確認する。		
論 点			

参 考	●平成20年度決算事務事業評価 セーフコミュニティ推進事業経費 個人総合評価：A・1人、B・5人、C・3人 (意見) ・事業が始まったばかりであるので、仕方がないが、手法や目標年次をもって、推進すべきである。 ・全国に先駆けた取組みにより、効果が各分野で出ている。また、ふるさと力向上にもつながり、地域の交流・親睦にも大きな効果が出ている。今後、市全域の広がりを願う。 ・自殺者増はマイナス面だが、事故の減少は大きな成果。一方、成果のとり方の根拠が予想の枠を出ていない。 ・目的達成や成果がよく見えない。 ・点数で評価できる事業展開までいっていない。効果を判断するのは早い。 ・認知度と市民的な理解が弱い。わかりにくい。セーフコミュニティの内容、具体的な安心安全の目標を一般的なものから明確にすべきではないか。 ・日本初を十分認識し、全町取組みに広げる必要があるが、現在の取組みだけでは十分でない。 ・評価になじまない事業ではないかと思う。 ●平成22年度決算事務事業評価 セーフコミュニティ推進事業経費：【拡充】 (意見) ・第4次亀岡市総合計画における目指す都市像にも掲げられており、市の最重点施策として取組まれている事業である。今回の東日本大震災の教訓からもわかるように安全安心のまちづくりに向けて一層の取組みを強化すべきと考える。 しかし、現状は、自殺、少年犯罪、交通事故等の発生件数は増えている状況であり、篠町や川東5町の取組みをもっと解りやすく、全市的な取組みに広げることが必要である。そのためにも、直接担当部署のみでなく、庁内の関係各課の連携を強化し、取組みを進められたい。 事業が全市的に広がり、市民への浸透が図られ、平成25年度の再認証につながるよう、更なる努力を期待するものである。

事務事業評価 論点整理資料

(2)【就学奨励経費】								
内 容	○経済的な理由で、修学が困難な高校生、大学生を支援するため、修学に必要な教材費として、亀岡市奨学金制度を設けている。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">(主な経費)</td><td style="width: 25%; text-align: right;">予算額</td><td style="width: 25%; text-align: right;">決算額</td></tr> <tr> <td>・ 亀岡市奨学金</td><td style="text-align: right;">7,400 千円</td><td style="text-align: right;">5,000 千円</td></tr> </table> (高校生 1 3 6 人、大学生 1 1 7 人) ＜決算額の推移＞ H25-21,640 千円、H26-11,190 千円、H27-8,330 千円、H28-5,000 千円		(主な経費)	予算額	決算額	・ 亀岡市奨学金	7,400 千円	5,000 千円
(主な経費)	予算額	決算額						
・ 亀岡市奨学金	7,400 千円	5,000 千円						
選 定 理 由	○当該経費については、年々減少しており、教育の機会均等の観点からも減少すべきでない。 ○制度がきちんと周知できているか。また、支給額算定根拠も含めた、執行状況の確認。							
論 点								
参 考	●平成24年度決算事務事業評価 <u>就学奨励事業</u>：【継続（改革改善）】 (意見) ・ 就学途中、卒業後等支給後の状況把握に努められたい。 ・ 公立高等学校の授業料無料化もされているので、支給額算定根拠の見直しを図られたい。 ・ 抜本的な見直しを図られたい。							

事務事業評価 論点整理資料

(3)【教育研究所事業経費】			
内 容	○生涯学習の基盤を培う教育の振興等を図ることを目的に、「学校支援センター」としての機能を強化・充実させ、次の事業を実施する。		
	・ 適応指導教室		
	・ 教育相談		
	・ 教職員研修講座		
	・ 学習活動支援		
	・ 調査研究等		
	(主な経費)	予算額	決算額
	・ 嘱託職員報酬（5人）	10,892 千円	10,892 千円
・ 施設管理経費（光熱水費、委託料等）	2,610 千円	2,194 千円	
・ 報償費（講師、臨床心理士等謝礼）	1,489 千円	1,134 千円	
・ 地域ふれあいサイエンスフェスタ2016	1,000 千円		
選 定 理 由	○京都府にも同じ制度がある中で、当該経費が本当に必要であるのか。 ○現在の場所での事業実施は妥当であるのか。		
論 点			
参 考	●平成22年度決算事務事業評価		
	教育研究所事業経費：【縮小】		
	(意見)		
	・人を育てるには時間もお金もかかることは一定理解するが、費用対効果を考慮し、基本的な見直しが必要である。		
	1. 現在の施設での実施は、費用対効果の面で見直しが必要。		
	経費の見直しをされるべき。		
	2. 十分な効果を発揮できるよう、場所も含めて見直すべき。		
	●平成25年度決算事務事業評価		
	教育研究所事業経費：【継続（改革改善）】		
	(意見)		
・他に誇れる実績をあげられるよう取組まれない。			
・必要な予算付けを行い、明確な予算執行に努められない。			
・教育研究所の設置場所は、コストと利用者の利便性を考慮し検討されたい。			

事務事業評価 論点整理資料

(4)【学校運営経費（小学校費）】			
内 容	○小学校教育の基礎的諸条件の整備を図り、学校運営の円滑化と小学校教育の一層の充実、教育環境の整備に努める。		
	(主な経費)	予算額	決算額
	・ 学校管理用消耗及び備品経費	24,985 千円	26,979 千円
	・ 学校図書館図書購入経費	6,000 千円	5,947 千円
	・ 灯油、ガス等燃料費	7,883 千円	
選 定 理 由	・ 学校施設管理業務委託料	18,000 千円	18,371 千円
	○学校現場から学校管理用消耗品・備品等の経費が足りないという声をよく聞くが、予算措置が適正にされているか。教育委員会として現状認識は。 ○配分予算も含めて、学校運営経費全体として、望ましい教育環境実現のための予算執行となっているか。		
論 点			
参 考	●平成21年度決算事務事業評価 <u>小学校運営事業</u>：【改善】 (意見) ・ 校務用パソコンの1人1台化等ICT整備事業は、進んだものと理解するが、学校図書については、児童生徒が利用しやすい図書環境整備を含め、単に標準達成率の増減にとらわれることなく、内容、蔵書数等学校図書の充実を図られたい。 ・ 電子黒板については、教育効果が向上するという成果があるのであれば、全市的に広げる必要があると考える。 ・ 学校現場の要望に応えた予算配分、予算執行の仕方を考える必要があり、用務員の雇用についても、校長の指揮命令権が及ばないシルバー人材センター委託ではなく、直接雇用すべきと指摘し、改善を望むものである。		

事務事業評価 論点整理資料

(5)【学校運営経費（中学校費）】			
内 容	○中学校教育の基礎的諸条件の整備を図り、学校運営の円滑化と中学校教育の一層の充実、教科に努める。特に学校図書・管理備品等の充実を図り、教育環境の整備に努める。		
	(主な経費)	予算額	決算額
	・ 学校管理用消耗及び備品経費	14,958 千円	16,298 千円
	・ 学校図書館図書購入経費	4,900 千円	4,904 千円
	・ 灯油、ガス等燃料費	3,844 千円	
選 定 理 由	・ 学校施設管理業務委託料	10,500 千円	10,987 千円
	○学校現場から学校管理用消耗品・備品等の経費が足りないという声をよく聞くが、予算措置が適正にされているか。教育委員会として現状認識は。 ○配分予算も含めて、学校運営経費全体として、望ましい教育環境実現のための予算執行となっているか。		
論 点			
参 考	(参考) ●平成21年度決算事務事業評価 <u>小学校運営事業</u> ：【改善】 (意見) ・校務用パソコンの1人1台化等ICT整備事業は、進んだものと理解するが、学校図書については、児童生徒が利用しやすい図書環境整備を含め、単に標準達成率の増減にとらわれることなく、内容、蔵書数等学校図書の充実を図られたい。 ・電子黒板については、教育効果が向上するという成果があるのであれば、全市的に広げる必要があると考える。 ・学校現場の要望に応えた予算配分、予算執行の仕方を考える必要があり、用務員の雇用についても、校長の指揮命令権が及ばないシルバー人材センター委託ではなく、直接雇用すべきと指摘し、改善を望むものである。		